



鎌ヶ谷市国際交流協会広報誌

第78号

2013年(平成25年)7月18日
発行：鎌ヶ谷市国際交流協会
〒273-0195 鎌ヶ谷市新鎌ヶ谷2-6-1
TEL 047-445-1141 (内550)
火曜を除く平日9:00~16:00
<http://www.kifa.gr.jp>

KIFA「多文化共生」へ再構築

鎌ヶ谷市国際交流協会(KIFA・長南勇会長)の2013年度総会が5月19日(日)、鎌ヶ谷市総合福祉保健センター6階の大会議室で開かれました。酒井哲郎会計の司会で高橋修司副会長が開会を宣言、あいさつに立った長南会長は「KIFAは大きな曲がり角にきています」と前置きして、「市の多文化共生センターが来年4月に完成、多文化共生連絡協議会が今秋にも発足するのに伴い、KIFAの自立化が要請されています。これまでのような支援がなくなると、いままで通りではやっていけない。事業のあり方、運営に大きな影響を受けることは避けられない。大きな試練に直面しています」と、厳しい環境に至っていることを訴えました。

このあと、清水聖士市長、土屋裕彦(前)市議会議員から別項のような祝辞・あいさつを頂きました。

2013年度定期総会を開催

総会は議長に杉山健治理事を選出し、事業報告、新年度予算案など提案議案の説明と審議に入りました。

初めに当該団体の人事異動などによる次の理事・監事



の交代が承認されました。理事・千葉県立鎌ヶ谷西高等学校長(旧、小玉秀史さん)が畑順子さんに交代。監事・ニッポー(株)(旧、顧問栗田朝治さん)から同社代表取締役青木健文さんに交代されました。

続いて2012年度事業報告及び収入支出決算並びにKIFA基金・留学基金収入支出決算及び監査報告がそれぞれ担当部門から報告され、質疑のあと承認されました。承認手続きについて会員から「拍手の承認では規則の会議議決の手続きに反しないか」と、異議申し立てがありましたが、慣例通り議長の裁量で「拍手での承認」をお願いしますとしました。

次に2013年度事業計画(案)、同収入支出予算(案)並びにKIFA基金・留学基金収入支出予算(案)の提案と趣旨説明が担当者から行われ、質疑のあと承認されました。さらにその他議案として、長南会長(写真左上)から「KIFA新体制について」として、課題ごとの検討スケジュール表の説明がありました。(なお、各議案に対する主な質疑内容は別項2面を参照)。

長南会長あいさつ要旨

市の多文化共生施策に伴い、連絡協議会など国際交流事業の環境が大きく変わろうとしています。市からKIFAには自立化の要請がなされています。KIFAはこれまで、市から多大なご支援をいただけてきましたが、完全に自立することとなると大きな影響を受けます。自立化は事業のあり方、運営に関しても、これまで通りではやっていけない。環境に即応した変化を遂げていかなければならない。KIFAにとって試練のときです。

清水聖士・鎌ヶ谷市長祝辞(要旨)

外国文化の相互理解は大切



KIFAの皆さんには、小中学校で日本語の出来ないお子さんへの日本語指導や日本語の出来ない外国の方々には、通訳や日本語講座をやっていただいたり、あるいは子どもに英語を教えてください、さまざまな場面で活動していただいております。

また昨年秋のトライデント高校生が来た際には、大変なご尽力、貢献をして下さり、ワカタネとの交流を進める上で大変役に立っています。鎌ヶ谷市の国際交流に関するさまざまな場面で貢献をされています。

外国との交流では、外国文化を理解し、外国人に日本の文化を理解してもらうことは、非常に大切なことです。多文化共生センターは重要な組織であり、KIFAの皆さんの貢献、活躍がとても重要です。今後ともお世話になると思います。どうかよろしくお願いします。

土屋裕彦・(前)鎌ヶ谷市議会議員あいさつ(要旨)

KIFAの活動しやすい環境を



鎌ヶ谷市の国際交流事業に指導的に貢献していただきお礼申し上げます。長南会長のあいさつをお聞きして、大変なご心配をおかけしていると感じました。私個人の認識なのですが、多文化共生センターができると、KIFA

にとっても、しっかりしたベースとなって、活動の幅も広がり、良いことだと認識を持っていましたが、大変なことなんだと心配になりました。

行政の側の変革も必要ではないかと思っています。いずれにせよ市議会としては、KIFAの活動しやすい環境整備に立って、対応していきたいと思っています。相談に来てください。

●総会における主な質疑応答・要望●

◆青少年委員会事業で特別授業として「クリスマス」と「ハロウィン」という、キリスト教の宗教行事を2回やっていますが、なぜ他の宗教はやらなかったのですか。誤解を受けないためにも改めていただきたい。

——基本的に、子どもたちが楽しみながら、言葉の学習と文化の交流を図るのが目的で、宗教行事を意識したものではないことをご理解ください。

◆鎌ケ谷市在住の外国人の数とKIFA会員のうち外国人の数を知りたい。

——KIFAとしては把握していないが、市の情報データによると1000人くらい。会員の外国人の数はいまは分からない。

◆KIFAパーティ等の外国人参加者が年々減っている。市の多文化共生に協力する以上、外国人の在住状況について、実態把握が必要ではないか、市とは詰めた話し合いを行っているのでしょうか。

——とくに情報提供はないが、KIFAとして独自に協力していくものとしている。国際交流事業と相互補完になるのではないかと考えている。

◆会員が減るから予算を低くするのではなく、会員を増やす努力を予算に盛ってもらいたい。

◆「多文化共生センター」におけるKIFAの位置付けを明確に示していただきたい。

2013年度の主な事業計画

◆広報事業

・「KIFApiazza」の編集と発行 ・ホームページ更新

◆交流事業

・KIFAパーティ ・国際交流バスツアー
・外国家庭料理講習会 ・交流カフェ

◆研修・講座事業

・外国語研修講座—英語、中国語、ハングル
・外国人日本語講座 ・日本語ボランティア研修
・英会話・多文化サロン ・世界を知る会
・スマイリーキッズ（子ども英会話教室）

◆ボランティア派遣事業

・市内諸団体、教育団体からの依頼により派遣
・通訳ボランティア活動の促進と研修会
・要望により通訳、翻訳を行う
・外国人ボランティア講師派遣
・日本語講師学校派遣事業

◆海外派遣・受け入れ事業

・ホームステイ・ビジットの受け入れ

◆国際交流に関する諸団体との連携・協力

・外国人に対する防災に関する事業
・東葛地区国際交流協会連絡協議会及び他市との交流
・千葉県西部地区国際交流協会情報交換会への参加
・鎌ケ谷市姉妹都市交流委員会事業に協力
・鎌ケ谷市多文化共生推進事業に協力

●広報委レポート● 「多文化共生をこえて」 国際理解セミナーに参加して

——在住外国人を地域の活力源に——

千葉県、ちば国際コンベンションビューロー主催による「多文化共生をこえて—在住外国人を地域の活力源に—」をテーマに、国際理解セミナーが6月4日（火）千葉市で開かれ、広報委から2人が参加しましたので、概略をレポートします。

講師は（公財）日本国際交流センター執行理事チーフ・プログラム・オフィサー毛受敏浩（めんじゅ としひろ）氏。同氏は日本国際交流センターに勤務、草の根の国際交流調査研究会を担当しています。

セミナーは、人口減少や少子高齢化が進む中で、①労働人口としての外国人活用、②外国住民と市民との共生による地域の活性化・街づくりに活かしていくこと——が講演の中心でした。

◎講演の概略 —多文化共生の必要性—

- ①多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築いていきながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。
- ②わが国は少子・高齢化が進行し、人口減少に歯止めがかからない状況にある。将来の労働力不足を補うためにも在住外国人を地域の活力源にする。
- ③外国人労働者の現実的な問題として、日本で介護士などの資格を取っても、自国の経済が豊かになると、自国へ戻ってしまい日本に定住しない確率も高い。
- ④国として、移民受け入れの前にやることがある。女性の活用、高齢者の活用など図るべきではないかなど意見もある。
- ⑤地域社会で取り組むべきことは、外国人受け入れが地域の

将来を左右することを理解すること。外国人の活躍を一般市民に知らせることが大切になる。

- ⑥交流の場をつくる。緑台将棋や井戸端会議的な、自然に会話できる場の設定。交流カフェなども良い。外国人歓迎の姿勢を自治体ぐるみで示すこと——などです。

◎毛受氏の講演を聴いて

氏の話に共感する参加者も多いようでした。将来的な人口減少への危機感からの、外国人受け入れや外国人活用の仕方など多くの示唆があり、言わば行政的立場に立った「多文化共生」の意義を学ぶ者には参考になったと思う。

鎌ケ谷市では現在、市が推進する「多文化共生施策」が緒に付いたばかりで、KIFA等の協力で外国人に住みやすい街づくりを進めようとしています。しかしそのことが市民の間に浸透し、理解されているかと言えば、「ノー」であり関心も薄く、現状では日本語指導、通訳などの外国人住民へのサポートのみが、鎌ケ谷市の「多文化共生」の現実ではなからうか。

将来的には講演の主題であった「多文化共生を超えた」、外国人住民の力を活かした、住みよい「多文化共生」の街になることではないでしょうか。それには外国人住民を含めた、地域住民相互のつながりを深めていくことが大事な視点になってきます。KIFAがこれまで培ってきた、草の根的国際交流活動の実績やノウハウを活かせる状況とすることが、「多文化共生施策」には欠かせない条件になるでしょう。



講演する毛受氏とセミナーの会場

今年度も3か国、5クラスで開講 語学研修講座

KIFA研修部会のメイン事業「語学研修講座」の2013年度の合同開講式（日本語を除く）と、第1回授業となるオリエンテーションが5月19日（日）、総合福祉保健センター大会議室において、英語1クラス、中国語2クラス（入門、初級）、ハンゲル2クラス（入門、初級）の受講者72人と3人の担当講師、スタッフ14人が出席して行われました。

今年度講座の講師陣は英語クラスが、これまでも英語クラスのカバー授業や英会話サロンなどでご協力いただいているDerek Smith 先生=写真右。趣味はサイクリングで、都内の自宅から鎌ヶ谷まで、ときどきは自転車で行くこともあるそうです。

中国語クラスは胡 丁毅（フー ディンイー）先生=同中。きめ細かいご指導でファンも多く、KIFAでの講師歴は4年目に入ります。趣味は山登りです。

ハンゲルクラスは金 秀妍（キム スヨン）先生=同左。この講座には初めての登場です。大学の博士課程に在籍する勉強家で、とても気さくで親しみやすいお人柄です。趣味は子育て。とくに二人のお子様への韓国語指導は厳しいそうです。

オリエンテーションに移ると英語クラスでは、当てられた二人が前へ出て、英語で自己紹介とあいさつを実習しました。応募動機は「グローバルな視野を持つには英会話が必要と感じて」という人が受講生の大半でした。



英語クラスのオリエンテーション



中国語の2クラスはクラス合同で



ハンゲルの2クラスも合同で

中国語の合同クラスでは、中国語での自己紹介練習。入門クラスの人の紹介を、初級クラスの人々が中国語に訳すシーンも見られました。受講の応募動機は「中国の食べ物、歴史、文化などに興味があるのでもっと知りたい」などでした。

ハンゲル合同クラスでは、発音練習中心の授業で「キムチ」の発音も、日本語読みと韓国語読みでは違いがあるようです。講座動機は「国同士の立場ではいろいろな問題もあるがKIFAではそれを超越して学べる。国際交流という意識がしっかりと根付いていると感じたから」などあげる人が多くいました。



今回の3人のゲストスピーカー左からAnnette 植松さん（ドイツ）、Kathryn Bohan (Kate) さん（アメリカ）、Todd Crabtree さん（アメリカ）。参加者は3グループに分かれ、巡回してくるスピーカーと会話を楽しみました。

2013年第1回「英会話サロン」

英語だけの時間です ナウ

2013年度第1回「英会話サロン」が6月9日（日）、総合福祉保健センター大会議室において開かれました。ゲストスピーカーは鎌ヶ谷市のALT講師Kathryn Bohan (Kate) さん。英会話学校講師Todd Crabtree さん。日本人のご主人と3人の娘さんの母ドイツ人のAnnette 植松さんの3人にお話をしました。

はじめにゲストから各自のテーマをスピーチ、その後、参加者は3つのテーブルに分かれ、順番に廻ってくるゲストと英語でのおしゃべり会に移りました。話す言葉は英語オンリー。悪戦苦闘しながらも一所懸命考えを述べる人、生き生きと口も滑らかな人など、それぞれがゲストスピーカーと言葉を交わし楽しんでいました。

KateさんのテーマはAmerican melting pot（人種の

るつぽ）。母方の祖母はドイツ人、祖父はスロベニア人、父方の祖父母はアイルランド人で父親が初代のアイルランドアメリカ人になりました。Kateさんは多国籍の血が混ざっていることを誇りに思うそうです。来日したとき日本語が全くできなかったけれど、祖母はドイツ語だけ、祖父はスロベニア語しか話せなかったがアメリカに順応できたので、祖父母同様に不安はなかったという。

ToddさんのテーマはWhat do you think is Japan's future?（日本の将来をどう思いますか）。今は中国、インド、ブラジルなどが大きな力をつけてきている。アメリカ、日本、UK、ドイツが経済や科学技術で世界をリードしている。これは重要なことでこの先、日本に何が起るか、世界の将来はどうなるのか考えてみませんか。

AnnetteさんのテーマはFriendship（友好）。ドイツには、60年前から日本の留学生がいたが、日本人が入るアカデミーがありませんでした。50年くらい前に篠田裕次郎氏が立ち上げたアカデミーが今でも続いており、日独の友好に役に立っているという。

ボランティアも新規加入 充実を続ける日本語講座

2013年度の日本語講座は4月10日（水）から、今年度KIFA事業のトップを切ってスタートしました。

新たに昨年の養成講座受講者がボランティアに加わり、スタッフ陣も充実しました。外国人生徒も延べ10カ国（アメリカ、イギリス、オランダ、フィリピン、中国、香港、ネパール、バングラデッシュ、ナイジェリア、ガーナ）となり、パラエティーに富んだ受講生が通っています。

3月27日（水）には受講生の協力を得て、新規登録ボランティアの指導実習も行い、新年度への態勢を整えました。



日本語授業（左）と特別学習会の模様

●特別学習会で楽しむ

日本語講座では3月13日（水）に、年度末の特別学習会を行いました。話せるレベルに合わせて自己紹介をしたり、スピーチ発表会の再現をしたり、授業前に練習しているシャドーイングを披露したりしました。ゲームの時間では動物鳴きまねクイズや形容詞ジェスチャークイズを楽しみました。（注：シャドーイングはCDを聞きながら、その音に被せるように同じスピードで本を読む練習方法です。）



日本語スピーチ発表会に3人が応援出場

柏市国際交流協会が主催する日本語スピーチ発表会が3月10日（日）に開かれ、KIFA日本語講座から3人の受講生が参加しました。中国の王瓊梓（おう けいし）さん＝写真右＝は「日本に感謝」、香港のWong Hoy Kay（ワン ホイ ケイ）さん＝同左＝は「私のお国自慢」、バングラディッシュのKamrul Hassan Bhuiyan（カムラル ハッサン ブイヤン）さん＝同中＝は「私の

家族」をテーマにスピーチ。他の出場者は、現在の生活について話しましたが、鎌ヶ谷市の参加者は、独自のテーマを取り上げている点で興味をひかれるものがありました。

王 瓊梓さんのスピーチを紹介します。



日本に感謝

みなさん、こんにちわ。私は王瓊梓と申します。2008年の10月に中国のハルビンから来ました。ハルビンとは「氷の城」と言う意味です。



最初の2年間は香川県で暮し、日本人の主人と結婚してから東京の中野区に移り住み、去年の9月に鎌ヶ谷市に引っ越してきました。日本に来た当初、私は少し不安でした。私の日本語はとてもひどくて、人と話せないし、日本料理もあまり食べられないし、突然やって来る地震も恐かったし、最初の2年間は日本で生活する自信がありませんでした。

しかし、ある日から、私のこの不安な思いは一変しました。2011年9月に私は専門学校で気を失い、突然倒れてしまいました。救急車で病院に搬送され、気が付いたのは病院のベッドの上でした。検査の結果は脳出血でした。入院して開頭手術を受けました。

2カ月の入院の間に、私は日本の多くの方から無限

の愛をいただきました。治療を担当された先生は毎日、私の病室に診察に来て下さり、看護師さんたちも空いた時間を利用して、順番に車椅子に座っている私とおしゃべりをして下さり、学校の先生と友人もわざわざ数回も病院に来てくれて、私を励ましてくれました。リハビリの先生たちも特に私の面倒をよく見て下さいました。

さらに病室を掃除するおじさん、シーツを交換するおばさんは毎日私を励ましてくれました「王さん、今日の笑顔も素晴らしいね！」などと声をかけてくれました。

これら、多くの方の心遣いにとても感動しました。

皆さんのおかげで、私は日本での大きい壁を乗り越えることができました。病状もだんだん良くなって、退院した後は日本に対する感情はとても良いものになっていました。今では、日本での生活がとてもかけがえないもののように思います。日本からもらった恩は一生忘れないでしょう。

この美しい国は私の第二の故郷になりました。

お知らせ

◆国際交流バスツアー 9月29日（日）

- * コース・海ほたる、横浜・キリンビアビレッジ、山下公園・中華街、三溪園
- * 詳細は8月15日付け市の広報をご覧ください。

編集後記

請を受けて、試行錯誤しながら草分け的に事業活動してきたことが評価された結果とも感じます。「日本語講座」も20年前、一人で6カ国語のパンフレットを作り、外国人に声掛けをしたところからのスタートでした。今では多文化共生事業の一番の目玉事業になるとは……。これからも会員、市民の視野に立った望まれる事業活動を展開していけたらと思います。（K.F）

総会の来賓祝辞で市長、（前）市議会議長から会員の士気を鼓舞させる激励をいただき、長年の苦労が無駄ではなかったと、曲がりかかった背骨が伸びたような気がします。26年前、市の要